

創造デザイン部門 地産地“興”（ちさんちきょう）

**課題概要**

人口急減・超高齢化という日本が直面する大きな課題に対して「地方創生」の取り組みが進められています。これは、各地域がそれぞれの特徴を活かした自立的+自律的で持続的な社会を創生するために、人々が安心して生活を営み、子供を産み育てられる「まち」を創り、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込み、地方への新たな人の流れを生み出すことで「まち」に活力を取り戻すことを目指すものです。

加えて、大学・高専は「地（知）の拠点」として、地元自治体や企業と連携・協働しながら地域課題解決や地方創生を進めていく役割を担っていくことも求められています。全国各地に配置されている高専ならではの強みを最大限生かしつつ、こうした時代の要請に応えていくことができるのではないのでしょうか。

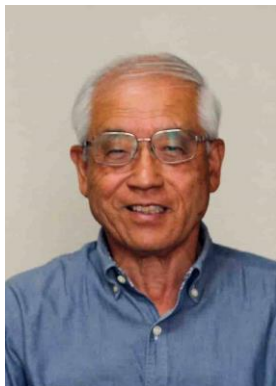
創造デザイン部門のテーマ「地産地“興”」には、「地域資源を生かして、地域振興を目指す」という意味が込められています。ここでいう地域資源とは自然、文化歴史、特産物、風土、建築物、産業、技術等、その地域の特徴（個性）に関わるあらゆる要素を含みます。さらには空き家や耕作放棄地、未整備の森林、地域特有の廃棄物（レンガ片、家畜糞、木片、生ゴミ等）といった、一見、負の遺産（弱み）と思われる事物も正の遺産へと転換しつつ、地域再生に活かす、あるいは、これまで注目されていなかった新たな地域資源を発掘し、焦点を当てるような意欲的なアプローチも考えられます。

地域ならではの資源を活かし、高専が「地（知）の拠点」としての役割を果たしつつ、メインテーマにある「デザインが天下（地域）を制する」ような、地方創生を実現するための具体的なシステムの提案を行って下さい。

## 審査委員紹介

審査員長

箕浦 秀樹 (みのうら ひでき)



### ■プロフィール

- ・生年月日 1944年11月26日
- ・生まれ地 岐阜県
- ・1969年3月 名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了
- ・1969年4月より 岐阜大学工学部（工業化学科、機能材料工学科）助手、助教授を経て、1993年9月より教授
- ・2004年4月～平成2008年3月 副学部長を兼任
- ・2008年4月～ 岐阜大学 名誉教授
- ・2008年4月～平成2012年3月 (財)岐阜県研究開発財団 コーディネータ
- ・2012年4月～2016年3月 (公財)岐阜県産業経済振興センター コーディネータ
- ・2012年4月～リエゾンラボみのうら代表

### ■主な活動・業務

- ・岐阜大学在職時にはプラスチック製カラフル太陽電池などの研究開発に従事。掲載論文100篇以上、テレビ出演多数。
- ・著書；サイエンスアイ新書「進化する電池の仕組み」（ソフトバンククリエイティブ(株) 出版。その他専門書の分担執筆多数。
- ・電気化学会佐野進歩賞、同功績賞を受賞。
- ・(財)岐阜県研究開発財団在職時には、岐阜県内の大学・高専、公設研究機関、中小企業間の産学官連携事業並びに岐阜県の「地域資源発掘活用プロジェクト事業」を推進。
- ・(公財)岐阜県産業経済振興センター在職時には、地域活性化担当コーディネータとして、岐阜県内の中小企業、小規模事業者、NPO法人などの支援活動に従事。

審査員

武藤 隆晴 (むとう たかはる)



■プロフィール

- ・生年月日 昭和 29 年 (1954 年) 4 月 18 日 (63 歳)
- ・生まれ地 岐阜県郡上市八幡町
- ・現住所 岐阜県郡上市八幡町

<職歴>

- 昭和 53 年 3 月 中部工業大学工学部建築学科卒業
- 昭和 53 年 4 月 八幡町役場勤務
- 平成 10 年 7 月 八幡市街地まちづくり協議会設立 事務局就任
- 平成 16 年 3 月 市町村合併により郡上市職員に移行
- 平成 17 年 4 月 郡上市基盤整備部建設政策課長
- 平成 23 年 4 月 郡上市八幡振興統括 (部長級)
- 平成 25 年 3 月 NPO 法人 郡上八幡水の学校設立 事務局長就任
- 平成 27 年 3 月 郡上市役所退職
- 平成 27 年 4 月 郡上市商工観光部参与に就任
- 平成 27 年 6 月 一般財団法人郡上八幡産業振興公社専務理事に就任  
同公社内に空き家対策組織「チームまちや」を発足し  
チームリーダーとして参画 現在に至る

■主な活動・業務

地方公務員として 37 年間にわたり一貫して郡上市の基盤整備やまちづくりを担当。特に郡上八幡市街地のまちづくりに深くかかわりながら、市民で構成するまちづくり協議会の設立、運営や水のまち郡上八幡を支える水の学校の設立、運営を始めとする市民活動を現在も進めている。

また、一昨年からは、空き家活用や移住促進を積極的に進める、「チームまちや」を立ち上げ、八幡市街地における人口減少や少子高齢化、商店街の衰退など多くの課題を、町家の再生を通じて一体的に解決していくための活動を展開している。

- ・水のまち郡上八幡 水の恵みを活かす知恵 (2016.03) 編集

審査員

嵯峨 創平 (さが そうへい)



■プロフィール

- ・生年月日 1961年10月24日
- ・生まれ地 秋田県
- ・1985年 立教大学(社会学部)卒業
- ・1985年～10年間、東京で地域開発シンクタンク研究員
- ・1995年～15年間、全国でまちづくりプランナー&ファシリテーター
- ・2011年～岐阜県立森林文化アカデミー教員(山村づくり・森林環境教育)
- ・2016年～揖斐川町駐在を兼任
- ・2017年～京都大学 大学院(地球環境学舎・景観生態学研究室)に在籍

■主な活動・業務

農山村・地方都市のまちづくりプランナー&ファシリテーターの仕事をして30年(訪れた自治体は1200以上)。自然環境・伝統文化の保全活用と、新しい社会潮流・新技術を融合させる起業者育成の仕組み「里山インキュベーター」を揖斐川流域で展開中。

(主なプロジェクト)

- ・湯布院町「総合計画策定調査」(1989-91)
- ・福島市「子どもの夢を育む施設(こむこむ)」市民ワークショップ(2003-05、JMMA学会賞受賞)
- ・福島県「三島町エコミュージアム構想」推進プロジェクト(2006-11)
- ・下呂市「馬瀬里山ミュージアム基礎調査」(2013-14)

## 予選通過作品一覧

エントリー 番号	学校名	作品名・氏名（学年 ※専攻科はS）
7	岐阜	地域住民が運営するコミュニティカフェ -本巣市北部地域を対象として- 相崎 結衣(5) 木村 大地(5) ○杉山 菜々子(5)
10	舞鶴	健輪のムコウ ○木村 悠希(4) 田中 甫(4)
14	サレジオ	よ・る一と 河村 麻希(4) ○櫻井 詠大(2) 山本 啓太(2) 上野 心(1) 齋藤 由佳(1)
18	石川	雨のち、金沢 のちのち金沢 ○高橋 杏奈(4) 高野 莉緒(4) 木下 範起(4) 深田 蒼翔(5) 東 義貴(5)
20	仙台(名取)	うらとのさち・あらたなかち ○仲村 拓馬(5) 金子 ひかり(5) 伊藤 若菜(4)
21	仙台(名取)	伊達なりー 池田 秀(5) 伊藤 廉(5) ○長濱 柊 (5) 佐竹 皓基(4)
41	米子	法勝寺電鉄線の復活～シニアカーを添えて～ ○大浦 和恵(5) 門城 月穂(5) 岡田 仁子(4) 加納 菜月(S1)
42	仙台(名取)	イノシシと共存、丸森で共存 ○星 祐希(2) 大沼 薫(5) 渡邊 百花(5)
44	阿南	Cで創るコミュニティ ○海部 登生(4) 白石智也 (2)
48	秋田	竿燈見に来てたんせ ○澤石 卓磨(S1) 福田 誠(S1)

## 予選審査講評（審査員長）

前回大会の23件から倍増の47件に上る応募は、衰退しつつある地域を憂える高専生の心に地産地“興”という今大会のテーマが響いたものと解釈したい。

審査で気付いた点を少し列挙したいと思う。

今回の提案における第1の特徴は、負と考えられている地域資源の活用を積極的に取り上げ、それらを活かして地域活性化に役立たせようとするものが多く含まれていた点である。そのうち10件ほど占めたのが空き家、空き店舗、廃校舎などを活用して新たな賑わいを創り出そうというもの。また、負の地域遺産の中には、雨とか増えすぎたイノシシといった厄介者を積極的に活かそうというユニークな取り組みもあり、若者の発想の豊かさ、頼もしさが感ぜられた。

第2には、非常にチャレンジングな地域課題の解決に取り組むための提案がいくつか見られたことである。主にシニアの人が中心となって取り組んできている地域の大きな課題に対する高専生の視点からの発想として注目に値する。こうした大きな課題に対する取り組みではとかく、具体的に自分たちができること、貢献の仕方など高専生としての主体的役割が不明確になりがちであり、今回の提案にもそういうもどかしさを感じたのも事実である。

複数の地域資源を活かした多岐にわたる綿密な事業計画の提案もあり、自分たちの知識を総動員して調べ上げた点は高く評価されるものの、実現に対する高いハードルをどのように越そうとするのか、その地区で生活する人々にどのように働きかけ、関与してもらおうとするのか、といった実現化に対する説得性がないと、絵に描いた餅になりかねない。

地産地“興”のためには、当該地域資源をまずよく知り、自分たちがそれを心から誇らしく思うことが出発点であろう。本選に残れなかった提案についても、それぞれ有意義なものと考えられるため、これらの点を踏まえて再考し、今後に役立てて欲しい。

本選に残った提案については、そういった点を踏まえて、ブラッシュアップに努めて欲しいと願っている。